

教材No.	6	SDGsの今昔未来物語 ～人々の多様性～
関連教科	HR、情報、公共、家庭	
関連SDGs	目標5（ジェンダー平等を実現しよう） 目標8（働きがいも経済成長も） など	

## ■教材の概要

- ①多様性の実現や、課題の探索・設定には、無意識の偏見への気づきが重要であると理解を深めます。
- ②デザインやブランドは、課題解決の手段となることの理解を深めます。



## ■学びの流れ（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	活動内容
導入 10分弱	<ol style="list-style-type: none"> <li>1（アイスブレイク）</li> <li>2「SDGsは人類の『幸せ（Well-being）』を追求するものであり、幸せには身体だけでなく『心の健康』も必要です。」</li> <li>3（マズローの欲求5段階説について簡易説明）</li> <li>4（ワーク1：心の健康とSDGsのゴールについて検討。）【個人 or グループ or 教師対話】</li> </ol>
展開1 20分強	<ol style="list-style-type: none"> <li>5「人々は、心も健康に、真に豊かな人生を歩むため、人種、性別、年齢、家族、思想、言論、行動など、様々な権利や個性が尊重されるよう闘ってきました。今回は日本社会でも意識変革が求められている「ジェンダー（社会的性別、性別役割分担意識）」に関してまずは見ていきたいと思えます。『個性や自分らしさといった多様性、ダイバーシティが尊重されるようになった事例とは何か？』、先人が何を想い何をしたのか、どんな探究をしたのか、見てみましょう。」</li> <li>6（ココ・シャネルに言及）</li> <li>7（デザインについて簡易説明）</li> <li>8（ディーセントワークに言及）</li> </ol>
展開2 15分強	<ol style="list-style-type: none"> <li>9「1つの事例を見てきたところで『多様性が尊重されるためには？』ということ、改めて考えていきましょう。」</li> <li>10（主体としての多様性の関わり方に簡易説明）</li> <li>11（ブランドについて簡易説明）</li> <li>12（ワーク2：課題発見力向上のための、アンコンシャス・バイアスに関する問題について検討）【個人 or グループ】</li> <li>13（客体としての多様性の関わり方に言及）</li> </ol>
まとめ 5分弱	<ol style="list-style-type: none"> <li>14「多様性の実現には無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）に気付くことが第一歩であることを見てきました。他人と関わって生きていく上でも、また、探究をする上で課題を考えるときにも、大事にしていきたい心構えです。」</li> <li>15（まとめ：SDGs・探究・価値づくりの観点で、ポイントを振り返る。）</li> <li>16（各人での振り返り、中間課題の予告・説明、等）</li> </ol>

■指導上の留意点（赤：起承転結の発話、緑：生徒ワーク）

段階	指導上の留意点、教材作成の狙い
事前活動	0 （授業予告と簡易思考問題の提示：自身が望む将来のWLBとは？）
導入 10分弱	1 （アイスブレイク：事前活動の内容を、席の近い人と共有、又は、全体で共有。） 2 「SDGsでは幸せを目指す。幸せには身体だけでなく『心の健康』も必要。」と、学びの導入を行う。 3 （マズローの5段階欲求説を説明する。） 4 （ワーク1：心の健康とSDGsのゴールの関係について、定まった答えはないため、様々な見方を引き出す。 目標5のジェンダーと、目標8の働きがいについては言及がなされたうえで、展開1に進む。）
展開1 20分強	5 「個性や自分らしさ（多様性：ダイバーシティ）が尊重されるようになった事例とは？」と、学びを深める発話を行う。 6 （ココ・シャネル：主要な活躍を一通り確認したのち、公式動画を日本語の字幕付きで視聴（※展開が早いため）。） 7 （デザイン：モノ・サービス・社会と様々なものが、人の気持ちに寄り添いデザインされていることに言及。） 8 （ディーセントワーク：働きやすさ・働きがい、について言及）
展開2 15分強	10 「多様性が尊重されるためには？」と、さらに学びを深める発話を行う。 10 （主体としての多様性：炭素固定化の技術は、後の授業の伏線となる。） 11 （ブランド：想いは、課題の着想だけでなく、課題解決を実行するためにパートナーシップを築く面でも重要であることに言及。） 12 （ワーク2：物事の捉え方を工夫して課題発見力を高めるために、無意識の偏見・前提への対処方法について勘所を掴む。） 13 （客体としての多様性：深い内容のため別授業で展開することも一案。）
まとめ 5分弱	14 「多様性の実現には無意識の偏見に気付くことが第一歩」と本日の意義に言及。 15 （まとめ：SDGs・探究・価値づくりの3観点で、今後の教訓を振り返る。） 16 （振り返りの一例：今後の探究や人生に生きそうな「気づきや印象に残ったこと」を各人でメモ。）
事後活動	17 中間ワーク2：探究行為の一連の見通し（動機・目的、仮説、アクション、等）を持つためのトレーニングする内容。

## ■学習の目標

成長軸	指導の目的	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
SDGs	様々な常識（固定観念・偏見）が問題の原因となりえることを理解する。	代表的な固定観念の例を理解している。	どのような前提が、その常識（固定観念）を成立させているのか表現できる。	自身が想起したり感じたりした理由を意識的に顧みようとしている。
探究	無意識の思い込みを意識して問題発見に取り組む意識を持つ。	固定観念を再考することが、課題発見に繋がりを理解している。		他者の考えも参考に、物事の前提を多面的に捉えようとしている。
価値づくり	デザインやブランド（想い）は課題解決にとって重要な行為・要素であると理解する。	課題解決には人の心が介在することを理解している。	他者又は自身の気持ちを起点として、アイデアの内容を調整・修正することができる。	社会に役立つ多様性を能動的に生み出そうとしている。

## ■教科との関連（評価規準は学習指導要領に記載の、当該科目・単元の目標に準拠）

教科	関連する科目・単元（学習指導要領との対応）	アレンジ例、利用例
HR	人権教育	展開1・2の内容を活かした活動を行う。
情報	情報社会の問題解決	展開1・2の内容を活かし、左記単元の導入又は関連学習として活動を行う
公民	公共	展開1・2の内容を活かし、個人の尊厳、職業選択、持続可能な社会づくりなどの導入や関連学習として活動を行う。
家庭	生活産業情報	展開1・2の内容を活かし、左記単元の導入又は関連学習として活動を行う

## ■活動の狙い（SDGsの目標、探究の武器、知財創造教育の要素との関係）

段階	SDGs ゴール	探究の 武器	知的財産・ 価値 づくりの 武器	尊重			創造			社会			
				人間の 心を尊 重する	既存の アイデアを尊 重する	他者の 強みを尊 重する	課題を 見つける	解決 策・アイ デアを考 える	アイデ アを表 現する・伝 える	自他の 暮らし や人生 を豊か にする	持続可 能な 「社会・文 化」に 貢献す る	「未 来」に 貢献す る	
導入	5, 10, 16			◎	●		◎	●	●	●	●		
展開 1	5, 8, 10, 16	言語化で きない違和感	デザイン ブランド	◎	●		◎				●	●	
展開 2	5, 8, 10, 16	無意識バイ アス メタ認知 多角的視点		◎	●		◎				◎	●	●
まとめ												●	

## ■参考文献

No.	文献名称	URL等
1	シャネルHP「シャネルの創業者、ガブリエル シャネル」	<a href="https://www.chanel.com/jp/about-chanel/the-founder/">https://www.chanel.com/jp/about-chanel/the-founder/</a>
2	竹内佐子「赤ちゃん本部長」講談社、2018年、2巻 NHKTVアニメ「赤ちゃん本部長」	(-)